



種ごとの調査結果

種ごとの調査結果

目次

水辺の生きもの

植物	ミクリ類	…23	
	バイカモ	…24	
	セリ	…25	
	カワチシャ	…26	
	オオカワチシャ	…27	
	カワラニガナ	…28	
	アズミノハラオモダカ	…45	
	魚類	カジカ	…29
		ドジョウ	…30
シマドジョウ		…31	
水生生物	ホトケドジョウ	…32	
	カワニナ	…33	
	コモチカワツボ	…34	
	サワガニ	…35	
	ホウネンエビ	…36	
昆虫類	アメリカザリガニ	…45	
	タイコウチ	…37	
	ギンヤンマ	…38	
鳥類	チョウトンボ	…46	
	ゲンジボタル	…39	
	ハイケボタル	…40	
両生類	カワセミ	…41	
	オオヨシキリ	…42	
両生類	ウシガエル	…46	
	トノサマガエル	…43	
	トウキョウダルマガエル	…44	

里地の生きもの

植物	シナノタンポポ	…47
	セイヨウタンポポ	…48
	アマナ	…49
	ユウスゲ	…50
	ワレモコウ	…51
	ヤブカンソウ	…52
	オオハンゴンソウ	…70
	オオキンケイギク	…53
	オオブタクサ	…54
	ナヨクサフジ	…55
	アレチウリ	…56

里地の生きもの

昆虫類	ツマグロヒョウモン	…57
	アオマツムシ	…58
	トノサマバッタ	…59
鳥類	ツバメ	…60
	イワツバメ	…61
	ヒバリ	…62
	カッコウ	…63
	オナガ	…64
爬虫類	ニホントカゲ	…65
	ニホンカナヘビ	…66
哺乳類	アブラコウモリ	…67
	アライグマ	…68
	ハクビシン	…69

里山の生きもの

植物	ウツボグサ	…71
昆虫類	カブトムシ	…72
	ヒグラシ	…73
	ミヤマクワガタ	…74
	アカボシゴマダラ	…82
	ヤママユ	…82
	ナナフシモドキ	…83
鳥類	ヨタカ	…75
	フクロウ	…83
	アオバズク	…76
	ガビチョウ	…84
哺乳類	ノウサギ	…77
	ホンドギツネ	…78
	ニホンジカ	…79
	ニホンカモシカ	…80
	ニホンイノシシ	…81



調査結果

水辺の生きもの

植物 ミクリ類

2012年度



2018年度調査までは、ミクリとナガエミクリの2種類を対象種としていましたが、見た目にはとても良く似た種であることから、今回から統合して情報を収集しています。

2023年度は、穂高や三郷地域の排水溝などで生育が確認されました。過去の調査では主な確認場所であった万水川周辺での確認情報はなく、個体数が減少している可能性があります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの

植物 バイカモ

2007年度



2012年度



バイカモは、犀川・高瀬川・穂高川の三川合流部などで生育が確認されています。

2018年度は豊科地域の中心部でも広く確認されていましたが、2023年度にはそれらの場所での確認はありませんでした。

注意して水路を探さないと見つからないため、見逃されている地点が多いと思われるのですが、今後の生育状況を見守ることが望まれます。

2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

植物 セリ

2007年度



2012年度



セリは、各年度とも平地から山麓部にかけての広い範囲で生育が確認されていますが、2018年度に確認があった穂高地域の山麓部での確認情報はやや減少しています。

2023年度は、特に、湧水の流れる水辺が多い豊科地域、穂高地域、明科地域の平地で多数確認されています。

2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 植物 カワヂシャ

2012年度



2018年度



カワヂシャは、2012・2018年度ともに、豊科・穂高地域の湧水地帯周辺で生育が確認されました。しかし、2023年度は生育の確認がありませんでした。生育に適した環境を巡って特定外来生物のオオカワヂシャと競合する関係にあり、生育数は減少していると考えられます。

2023年度

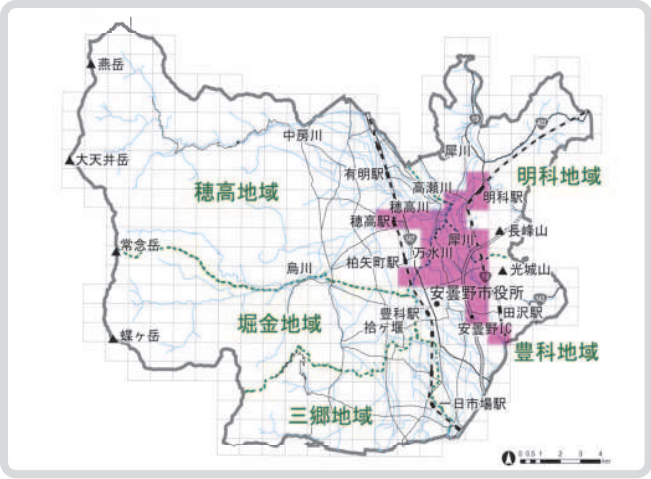


第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの
植物 オオカワヂシャ

2012年度



2018年度



オオカワヂシャは、犀川・高瀬川周辺で生育が確認されています。
 2023年度は、以前に比べて確認地点数が減少していますが、御宝田遊水池付近の水路沿いや万水川では継続して確認されています。
 特定外来生物に指定されており、在来種のカワヂシャへの影響が心配されています。日当たりの良い水辺を好むことから、今後も市内周辺の水路沿いなどで繁茂する可能性があります。

2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの
植物 **カワラニガナ**

2012年度



カワラニガナは、2023年度は生育の確認がありませんでした。過去の調査では、2018年度にのみ犀川・高瀬川・穂高川の三川合流部付近の河川敷で報告されています。河川の石礫河原を好んで生育する種ですが、河原の樹林化などにより生育地が減少している可能性があります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの

魚類 **カジカ**

2007年度



カジカは、犀川・高瀬川・穂高川・烏川などで生息が確認されています。調査回ごとに確認位置には多少違いがみられますが、2023年度の調査では、概ね2018年度と同じ場所で確認されました。

犀川や高瀬川などでは、昔からカジカ漁が行われていますが、近年は漁獲数が減少傾向にあるといわれており、今後の状況を見守ることが望まれます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

魚類 ドジョウ

2007年度



ドジョウは、平地を中心に広い範囲で生息が確認されています。これまで3回の調査で大きな分布の変化はありませんが、2023年度は確認された場所はやや減少しています。市内に定着している外来種のカラドジョウと交雑や生息環境が競合する可能性もあり、今後の状況を見守ることが望まれます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

魚類 シマドジョウ

2007年度



シマドジョウは、犀川や高瀬川及びその支川周辺において生息が確認されています。

2023年度は、過去の調査に比べて確認地点数はやや減少していますが、同様の場所での確認報告があり、生息状況に大きな変化はないと考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 魚類 ホトケドジョウ

2012年度



ホトケドジョウは、2023年度は生息の確認がありませんでした。
2012・2018年度には豊科・三郷地域の湧水の流れる一部の河川や水路などにおいて生息が確認されています。湧水などが流れる特に綺麗な水の環境に生息する生きものであるため、確認できる地点が限られていると思われるのですが、今後の生息状況を見守ることが望まれます。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの

水生生物 **カワニナ**

2007年度



カワニナは、犀川周辺、烏川、平地の水
路などで生息が確認されています。
2023年度は、過去の調査に比べて確
認地点数はやや減少していますが、確
認場所に大きな変化はなく、市内の水
域に広く生息していると考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度



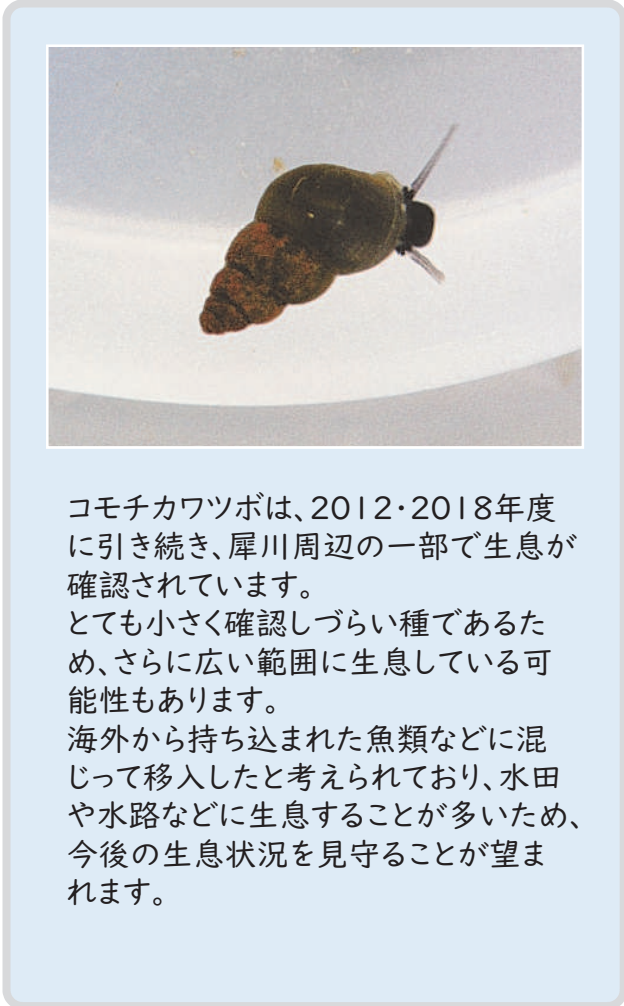
調査結果

水辺の生きもの

水生生物

コモチカワツボ

2012年度



コモチカワツボは、2012・2018年度に引き続き、犀川周辺の一部で生息が確認されています。とても小さく確認しづらい種であるため、さらに広い範囲に生息している可能性もあります。海外から持ち込まれた魚類などに混じって移入したと考えられており、水田や水路などに生息することが多いため、今後の生息状況を見守ることが望まれます。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの

水生生物 **サワガニ**

2007年度



サワガニは、市内各所の水辺で生息が確認されています。

2023年度の確認範囲は、過去の調査時より狭くなりましたが、平地から山地まで広い範囲で確認されているため、市内に多数生息していると考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 水生生物 ホウネンエビ

2007年度



ホウネンエビは、明科地域を除く市内の広い範囲で生息が確認されました。2018年度以降、市内で確認される範囲が広がっており、農薬の少ないホウネンエビの生息に適した水田が増えてきた可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 昆虫類 タイコウチ

2012年度



タイコウチは、穂高地域と三郷地域で生息が確認されました。2012・2018年度は平地の広い範囲で確認されていましたが、2023年度は確認範囲が縮小しました。水田の減少や圃場整備などで、生息環境が減少している可能性があります。

2018年度



2023年度

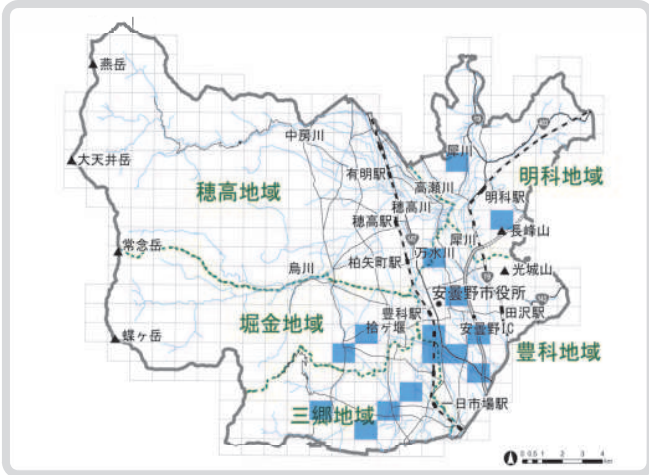


第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

水辺の生きもの 昆虫類 **ギンヤンマ**

2007年度



ギンヤンマは、平地から山麓部にかけて、市内全域で生息が確認されています。年度ごとに確認場所に多少違いがみられるのは、夏場、産卵に利用する水の張った水田の場所が、年によって異なっていることが関係している可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 昆虫類 **ゲンジボタル**

2007年度



ゲンジボタルは、穂高・明科地域の犀川・高瀬川周辺で生息が確認されており、2018年度と大きな変化はありません。
幼虫の餌となるカワニナは、堀金地域でも確認されていることから、さらに広い範囲に生息している可能性もあります。今後も生息状況を見守るとともに生息に適した水環境を保全していくことが望めます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの 昆虫類 ヘイケボタル

2007年度



ヘイケボタルは、2012・2018年度に比べると確認情報がやや減少していますが、平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されています。今後も生息状況を見守るとともに生息に適した水環境を保全していくことが望まれます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

鳥類 カワセミ

2007年度



カワセミは、平地の河川を中心に生息が確認されています。特に市内を流れる河川や用水路が合流する穂高・明科地域での確認が多いことから、カワセミにとって、生活場所である河川や用水路がつながっていることが大切であると考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの
鳥類 **オオヨシキリ**

2007年度



オオヨシキリは、平地から山麓部にかけて生息が確認されています。2007・2012年度に比べると、2018・2023年度は山麓部での確認が増えている傾向がみられます。河川沿いのヨシ原だけでなく、山麓部の農地や荒地に生息地が拡大している可能性があります。

2012年度



2018年度



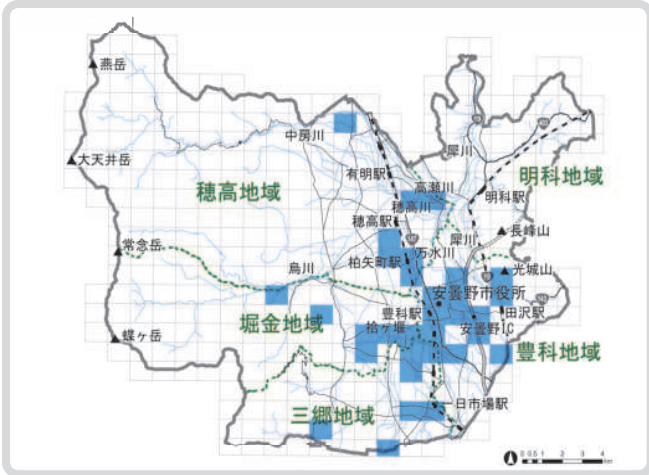
2023年度



調査結果

水辺の生きもの
両生類 トノサマガエル

2007年度



トノサマガエルは、平地を中心に広い範囲で生息が確認されています。2007・2012年度に比べると、2018・2023年度は明科地域の犀川・潮沢川沿いでも確認の報告がありました。トウキョウダルマガエルとの交雑が進んでいる可能性があることから、今後の生息状況を見守ることが望めます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

両生類

トウキョウダルマガエル

2007年度



トウキョウダルマガエルは、市内の平野部で生息が確認されています。2023年度は、市内の平地の広い範囲から報告がありましたが、見分けることが難しいトノサマガエルとの交雑個体が含まれている可能性もあることから、引き続き今後の生息状況を見守ることが望まれます。

2012年度



2018年度



2023年度



調査結果

水辺の生きもの

植物

アズミノヘラオモダカ

2023年度



アズミノヘラオモダカは、2023年度の調査では確認がありませんでした。市内を含む、県内の限られた場所でのみ自生が確認されておらず、国（環境省）、長野県、安曇野市レッドリストで絶滅危惧種となっています。

水辺の生きもの

水生生物

アメリカザリガニ

2023年度



アメリカザリガニは、2023年度の調査では確認がありませんでした。日本全国に広く分布する身近な生物ですが、水辺の環境に対して大きな影響を与えるとして、2023年6月から、条件付特定外来生物に指定されています。

調査結果

水辺の生きもの 昆虫類 **チョウトンボ**

2023年度



チョウトンボは、近年、市内で確認されるようになった種です。2023年度の調査では明科地域の池などで生息が確認されています。温暖な気候を好む昆虫のため、気候変動などに伴って分布を広げる可能性があります。

水辺の生きもの 両生類 **ウシガエル**

2023年度



ウシガエルは、捕食性が強く、生態系に影響を及ぼす可能性があることから、特定外来生物に指定されています。2023年度の調査では、三郷、明科地域の池周辺で生息が確認されました。現時点では分布は限定的ですが、今後の分布拡大に注意が必要です。